

先物・オプションマーケット

世界の株価指標

はじめに

世界の証券市場には株価指標があり、投資家に相場動向についての情報を提供している。また、最近では、機関投資家のポートフォリオのヘッジの手段として、これらの指標を対象とする株価指数先物やオプション取引が導入され、広く利用されている。

株価指標はいくつかのグループに分類できるが、修正を行うことで株価の連続性を維持しているのは修正平均株価と株価指数の2つである。修正平均株価は、増資権利落ち、採用銘柄の入替え、減資といった通常の市況変動以外の要因による株価の変動に伴う単純平均株価の断層を修正し、株価に連続性を持たせたものである。ダウ・ジョーンズが考案したことからダウ式修正と言われている。株価を加重した平均であるため、企業の規模に関係

なく各銘柄のウェイトは同じである。代表的なものに米国のダウ工業株平均、日本の日経平均がある。

一方、株価指数は、基準時点の株価水準に対する比較時点の株価水準の比較を示すものであり、いくつかの種類があるが、最も一般的なものは、上場株式数を加重した時価総額方式である。銘柄の入替えや増資権利落ち等で上場株式数に変更があった場合には基準時価総額を修正することで連続性を保っている。この指数は上場株式数のウェイトがかかることから、大型株の比重が高くなる。代表的な指標には、S&P500株価指数、TOPIX、FT-SE100等がある。また株価指数には、売買高加重指数、株価加重指数、幾何平均指数等もある。

また、新しい動向として一国の株式だけではなく、世界の株式市場の動きを示す世界指数の開発が盛んに行われており、国際分散投資を行う機関投資家を中心に広く利用されている。

以下は世界の主要国の株価指標を一覧にまとめたものである。

指数名	ダウ・ジョーンズ 工業株30種平均 (アメリカ)	S & P 500種株価指数 (アメリカ)	NYSE総合株価指数 (アメリカ)
構成銘柄	NYSE上場工業株30銘柄	NYSE, AMEX上場及びNASDAQ登録500銘柄	NYSEの全上場普通株
指数算出基準時 又は算出開始日	1896年	1941-43年=10	1965年12月31日=50
算出方法	単純(修正)平均	時価総額加重	時価総額加重
2月末の数値	3,370.81	443.39	244.08
派生商品 (取引所)	カンザスシティ商品取引所及びCBTが指数先物の対象として計画したが、ダウ・ジョーンズ社の反対で実現せず。	<ul style="list-style-type: none"> 先物 (CME) 現物オプション (CBOE) 先物オプション (CME) 	<ul style="list-style-type: none"> 先物 (NYFE) 現物オプション (NYSE) 先物オプション (NYFE)
特記事項	ダウ・ジョーンズ社により1896年から算出されている歴史の古い株価指標。米国の代表的な株価指標として米国内はもとより世界中の投資家に広く利用されている。採用銘柄は当初12銘柄であったが、1928年10月に30に増やされ、以後随時銘柄の入替えは行われているが、銘柄数は現在まで不変である。指数の連続性を保つためにダウ式と呼ばれる修正方法を考案し、採用している。	米国の投資情報サービス会社のスタンダード・アンド・プアーズ社が算出公表しており、ダウ平均と並んで有名な指数である。1923年に233銘柄でスタートし、1957年に500銘柄に増やし、1976年以降NYSE上場銘柄以外の銘柄も採用している。構成銘柄の内訳は、工業株385銘柄、運輸株15銘柄、金融株56銘柄、公益事業株44銘柄となっている。この指数の特徴は、機関投資家のポートフォリオのパフォーマンスを測定するベンチマークとして広く利用されていることである。	工業、公益、金融、運輸の4つの業種別指数を総合した指数である。基準値を50としたのは、基準日の加重株価平均に近い値であったことによる。指数の性格上大型株の占めるウェイトが高い。なお、遡及データについては、1964年まで計算されていたSEC指数を換算する方法で1939年まで計算されている。

指数名	バリュールライン 総合株価指数 (アメリカ)	S&P100種株価指数 (アメリカ)	メジャー・マーケット・ インデックス (MMI) (アメリカ)
構成銘柄	NYSE, AMEX 上場株及び NASDAQ登録株1700銘柄	個別株式オプションがCBOEに 上場されているNYSE上場100 銘柄 (全てS&P500指数採用銘 柄)	NYSE上場20銘柄。内18銘柄が DJIA採用銘柄。
指数算出基準時 又は算出開始日	1961年6月30日=100	1983年=100	1980年
算出方法	幾何平均	時価総額加重	単純(修正)平均
2月末の数値	273.38	407.70	353.84
派生商品 (取引所)	・先物 (KCBT) ・現物オプション (PHLX)	・先物 (CME) ・現物オプション (CBOE)	・先物 (CBOT) ・現物オプション (AMEX)
特記事項	工業株1500銘柄超, 公益株約160銘 柄, 鉄道株約11銘柄からなり, 構成 銘柄の80%以上がNYSE銘柄であ る。比較的小型の株式を多く含ん でいることから, 他の指数よりも ボラティリティが高いと言われて いる。	CBOEが指数オプション用に開発 した指数で, 当初はCBOE100と呼 ばれた。その後S&P500オプショ ン導入時にS&P100に名称変更す る。構成銘柄は大部分が工業株で あるが, 運輸, 公益, 金融株も一部 含まれている。時価総額はS& P500の約40%である。	AMEXが指数オプション用に開 発した指数。DJIAとの共通採用銘 柄が多いため, DJIAと正の相関度 が非常に高く, 相関係数は常に 0.90を超えている。

指数名	トロント証券取引所 300種総合指数 (カナダ)	FT Ordinary株価指数 (イギリス)	FT Actuaries株価指数 (イギリス)
構成銘柄	トロント証券取引所上場300銘 柄	ロンドン証券取引所上場30銘柄	ロンドン証券取引所上場約700 銘柄 (総合指数)
指数算出基準時 又は算出開始日	1975年=1,000	1962年4月10日=100	1962年4月10日=100
算出方法	時価総額加重	幾何平均	時価総額加重
2月末の数値	3,451.69	2,208.4	1,396.53
派生商品 (取引所)	・先物 (トロント先物取引所) ・現物オプション (TSE)	—	—
特記事項	1977年1月に導入された指数であ る。この指数の特徴は, 発行済株式 数から大口株主 (20%以上保有) の 保有株数を控除した浮動株数を用 いて計算していることである。	フィナンシャル・タイムズ社が算 出・発表している英国で最も歴史 の古い指数。採用銘柄の変更は, 産 業構造の変化を反映して適宜行わ れており, 元はFT工業株指数と呼 ばれていたように, 工業株主体で あったが, 最近ではサービス産業の 比重が高まっている。幾何平均の ため価格変動が小幅に押さえられ, 長期的尺度としては適していない と言われる。	フィナンシャル・タイムズ社と保 険統計数理協会が共同発表してい る指数。500種工業株指数 (工業株 488, 石油・ガス12), 総合指数 (前 記の500種に金融会社, 投資信託等 を加えたもの) 及び多数の業種別 指数を発表している。計算は1日 1回行われる。

指数名	FT-SE100指数 (イギリス)	CAC40 (フランス)	DAX (Deutsche Aktien Index) (ドイツ)
構成銘柄	ロンドン証券取引所上場株の内 時価総額上位100銘柄	パリ証券取引所上場銘柄中月末 決済市場取引40銘柄	取引所上場30銘柄
指数算出基準時 又は算出開始日	1984年1月3日=1,000	1987年12月31日=1,000	1987年12月31日=1,000
算出方法	時価総額加重	時価総額加重	時価総額加重
2月末の数値	2,868.0	1,983.71	1,684.35
派生商品 (取引所)	・先物 (LIFFE, CME) ・現物オプション (LIFFE, CBOE) ・先物オプション (LIFFE, CME)	・先物 (MATIF) ・現物オプション (MONEP)	・先物 (DTB) ・現物オプション (DTB) ・先物オプション (DTB)
特記事項	先物・オプションの対象指数として フィナンシャル・タイムズ社と ロンドン証券取引所が共同開発した もので、全上場株式時価総額の 約70%をカバーしている。一般に Footsie (フートシー) 呼ばれてい るこの指数は1分毎に計算が行われ 、公表されており、現在では英国 を代表する指数になっている。構 成銘柄の見直しは年4回行われる。	先物・オプション取引の対象として 1988年に開発された指数。CAC と呼ばれるのは、この指数の前身 である指数 (247銘柄で構成) が株 式仲買人組合 (Compagnie de Agent de Change) が作成・管理 していたことによる。パリ証券取 引所市場1部の月末決済市場 (こ の他に即時決済市場がある) で取 引されている銘柄のうち、時価総 額が上位100位以内でかつ流動性 の高い銘柄が選ばれている。	株価指数先物・オプション取引の 導入に備えて開発された指数。ド イツの指数としては初めてリアル タイム (1分毎) に計算、公表され ており、現在ではドイツ証券市場 を代表する指数となっている。指 数構成30銘柄で全上場企業の時価 総額の約60%、出来高の約80%を 占めている。業種構成は次の通り ：電気1銘柄、化学6銘柄、機 械・鉄鋼7銘柄、小売2銘柄、銀 行・保険6銘柄、自動車・輸送5銘 柄、エネルギーその他3銘柄。

指数名	コメルツ銀行株価指数 (ドイツ)	マドリッド証券取引所指数 (スペイン)	韓国証券取引所 総合株価指数 (韓国)
構成銘柄	取引所上場60銘柄	スペイン企業70銘柄	証券取引所全上場株
指数算出基準時 又は算出開始日	1953年12月31日=100	1985年12月31日=100	1980年1月4日=100
算出方法	時価総額加重	時価総額加重	時価総額加重
2月末の数値	1,865.60	232.89	644.70
派生商品 (取引所)	——	——	指数先物の導入を計画中
特記事項	コメルツ銀行が開発したドイツで 最も歴史の古い指数。全上場企業 の時価総額の約4分の3をカバー。 外国では比較的有名であったが、 国内では特定の銀行名がついてい ることからあまり広くは使われて いない。	1986年までは毎年初を100として 指数計算を行っていた。したがっ て、1985年以前と1986年以降の間 には指数の継続性はない。	1983年に導入された指数であり、 第一部、第二部の全ての上場銘柄 を対象にしている。

指数名	ハンセン指数 (香港)	ストレート・タイムズ 工業株指数 (シンガポール)	SET指数 (タイ)
構成銘柄	香港証券取引所上場33銘柄	シンガポール証券取引所上場工業株30銘柄	タイ証券取引所全上場株
指数算出基準時 又は算出開始日	1964年7月31日=100	1964年12月30日=100	1975年4月30日=100
算出方法	時価総額加重	幾何平均	時価総額加重
2月末の数値	6,351.99	1,664.50	937.65
派生商品 (取引所)	・先物(HKFE)	——	——
特記事項	ハンセン銀行の子会社であるHSI Services LTDが指数の計算・公表をしている。金融、公益、不動産、商工業の4種類のサブ指数があり、構成銘柄で時価総額の75%、取引高の70%以上を占める。	ストレート・タイムズ社が英国のFT30指数をモデルに開発した指数で1日2回計算されている。1990年1月にマレーシア株14銘柄が上場廃止になったのに伴い、シンガポール株14銘柄に差し替えている。	時価総額上位10社で全体の30%近くを占めており、大型株のウエイトの高い指数である。

指数名	オーストラリア 証券取引所全普通株指数 (オーストラリア)	モルガン世界指数	ダウ・ジョーンズ 世界指数	ユーロトップ100
構成銘柄	上場活発普通株242銘柄	世界主要20か国の上場企業約1500銘柄	世界主要10か国の上場企業約2200銘柄	欧州のOECD加盟主要国から選ばれた100銘柄。
指数算出基準時 又は算出開始日	1979年12月31日=500	1970年1月1日=100	1991年12月31日=100	1990年
算出方法	時価総額加重	時価総額加重	時価総額加重	売買高加重平均
2月末の数値	1,609.6	507.8	95.14	464.50
派生商品 (取引所)	・先物 (シドニー先物取引所) ・先物オプション(//)	——	——	・先物(アムステルダム金融先物市場, COMEX) ・現物オプション(EOE, AMEX) ・先物オプション(COMEX)
特記事項	指数構成銘柄で全上場企業の時価総額の60%以上を占める。	構成銘柄の時価総額は、対象取引所の時価総額の約60%を占める。総合指数の他に、地域別指数、国別指数、業種別指数等が発表されており、国際分散投資を行う機関投資家のベンチ・マークとして広く利用されている。	今年から発表を開始した新しい世界指数。総合指数以外に地域別、国別等の指数を発表するのは他の世界指数と同様であるが、業種を120に細分化したきめの細かさを特色としている。	EOEが開発した指数で欧州通貨であるECUで表示される。OECD加盟国で時価総額が500億ECU以上の国から選ばれた株式100銘柄で構成されており、現在は、英、仏、独、伊、スイス、オランダ、スペイン、スウェーデン、ベルギーの9か国の株式が含まれている。各国のウエイトは、時価総額及びGNPに基づいて決められ、各国のウエイト比率に等しい数の銘柄が売買高を基準に選定される。国別のウエイトは2年ごと、構成銘柄は毎年見直される。

(参考) 日本の株価指標

指数名	TOPIX	大証300種株価指数	オプション25
構成銘柄	東証一部全上場株	大証一部上場300銘柄	東証, 大証, 名証一部共通上場25銘柄
指数算出基準時 又は算出開始日	1968年1月4日=100	1968年1月4日=100	1988年1月4日=1,000
算出方法	時価総額加重	時価総額加重	株価加重
2月末の数値	1,284.21	1,087.60	650.06
派生商品 (取引所)	・先物(東証) ・現物オプション (東証)	—	・現物オプション (名証)

指数名	日経平均株価	日経500種平均株価	大証250種 修正平均株価
構成銘柄	東証一部上場225銘柄	東証一部上場500銘柄	大証一部上場250銘柄
指数算出基準時 又は算出開始日	1949年5月16日	1972年1月4日	1949年5月16日
算出方法	単純(修正)平均	単純(修正)平均	単純(修正)平均
2月末の数値	16,953.35	1,076.61	18,105.61
派生商品 (取引所)	・先物(大証, SIMEX, CME) ・現物オプション(大証) ・先物オプション(SIMEX, CME)	—	—

(I. T)
(Y. I)

日経平均株価の補充銘柄について

日本経済新聞社は、平成5年3月26日、日経平均株価の算出対象銘柄である山陽国策パルプ(3702)が十條製紙(3863)との合併により上場廃止となるのに伴い、井関農機(6310)を補充し、平成5年4月1日より実施することを発表した。